

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
会長 佐藤 正行
事務局長 新津 智哉
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
印刷所 (株) 有 伸 商 会
TEL (011)814-6211

ドンピシャリ！～全国大会の講演を聞いて～

講演「こどもの読書における紙とデジタルの使い分け～認知科学からの考察～」(群馬大学教授 柴田 博仁氏)

全国SLA学校図書館スーパーバイザー、北海道SLA研究担当理事 佐藤 敬子

(北海道教育大学札幌校講師)

「膝を打つ」とはこのことだろうか。

この講演を聞いて、日頃から経験上漠然と考えていたことがきちんと認知科学の分野で証明されたようで、私はまさに膝を打った。

子どもは身体的な存在である。小さければ小さいほどその度合いが強い。そういう子どもたちに対して一律に「一人一台端末」が入ったから、「もう調べる学習はすべてこれ一人一台でOKね！」という風潮が一部あるのを悲しく思っていた。

そして、いくらコンピュータがひとりひとりの手元にあっても、何でもかんでもどんな子でもそれを早い時期から使うのがよいのか？という疑問はあった。子どもによってはコンピュータがあるおかげで学習がしやすくなる子がいることは知っているが、一般的にはやはりまずアナログな（つまり身体や手を動かす）調べ方・伝え方を身につけ、本質的な方法を体得してから、中学生くらいから徐々に情報活用能力の育成指導の一環として「端末も使って調べる」学習も進めていけばよいのではないかと思う。手を動かし身体を動かして調べ、読み、書き、考えることをまず大事にした方がよいのではないか、しかも小さければ小さいほど…。

現場の先生たちは焦ることはないのではないかと思う。今は少々、この一人一台端末をどう使うかの研究に熱狂しすぎる風潮があるように見える。使い方を探求するのは大切なことだが、使ってどういう結果を子どもたちにもたらすのか？を見極めることが一番重要なことなのだ。そしてその子どもたちはもともと極めてアナログな存在なのである。機械は進歩しても人間の肉体的な「造り」はそう簡単に進化しない。もちろんそれは脳も…。おまけにその子どもたちはひとりひとり違うのだ。一人一台端末の使いこなし方にも当然差異はあるだろう。「同じように便利に効率よく学習が進められる」というわけではない。

認知科学が証明する紙とデジタルとの使い分け、それはどういう段階でどう使い分けていったらよいのか、よく考えて子どもたちにとって無理のない方法を、こちらが少し落ち着いて考えていくとよいのではないかと思うのである。

そしてそのとき大いに参考にすべきは、やはり全国SLAの「情報資源を活用する学びの指導体系表」(2019年1月1日～)である。この表はそういう面でよくできていると思う。この表をじっくりと見て、それに沿った体系的な指導計画を各学校で立て、それをもとに指導を進めていくのがやはり一番よい方法ではないか、一人一台端末もその中に上手に取り入れて使っていけばよいのだ…という考えをより一層強くさせられた講演であった。

全国SLAの機関誌「学校図書館」の今年度9～10月号で、このときの柴田氏の講演が掲載されている。そのときのままの語り口で、講演の様子がじつにリアルによみがえるようになっている。ぜひ一読をお勧めしたい。

第43回全国学校図書館研究大会（オンライン大会）に参加して

つなぎ、まとめる、学校図書館

北海道学校図書館協会 研究部長 山田佳子

(札幌市立北郷小学校教諭)

隔年で行われる全国学校図書館研究大会。現地へ赴き、学校図書館に携わる方々の熱意を肌で感じると、「こんなアイデアがあったのか」「自分の学校ならどうだろう」と、すぐにでも自校の学校図書館に行きたくなるようなワクワクする思いが沸き上がります。でも、今回はオンライン大会ということで、画面に向かっての参加となってしまいました。とはいえ、どの講座も、講師や発表者の熱意が変わることはなく、繰り返し視聴することで、学びを深めることができましたと思います。

「新しい教育を拓く学校図書館～ICT活用の新たな可能性～」のテーマ通り、どの講座もGIGAスクール構想の中での学校図書館像を探る内容で、まさに今直面している課題について考えさせられました。特に、柴田博仁先生の講演「子どもの読書における紙とデジタルの使い分け」では、深い読みをするには紙が優れていることなどが様々な実験から検証されており、今後の学習でのデジタル端末の使い分けについて深く考えさせられました。

また、情報活用授業コンクール受賞校の実践発表は、いずれも地域資料をはじめとするファイル資料の充実と段階を踏んだ活用指導が大変示唆に富んでいました。図書資料の少ない地域資料をどのように収集し、手に取りやすい形にするか見直すとともに、インターネットからの情報収集と、集めた資料のアーカイブ化の推進について、考えることができました。いずれも一朝一夕にはできないことです。授業を担当する教諭と資料を収集する学校司書、そして両者をつなぎ、指導体系をまとめる司書教諭のそれぞれが役割を果たしていく大切さも痛感しました。

実践へのたくさんのヒントを得た全国大会でした。やりたいことは山のように見つかりました。まずは、目の前にいる子どもたちのために、できることを一つずつ取り組んでいきたいと思っています。

支部だより ● 函館支部 ●

昨年度は、第44回北海道学校図書館研究大会函館大会に、オンライン開催ではありましたが、たくさんのご協力並びにご参加をいただきありがとうございました。

函館支部は、「函館市学校図書館研究会」という名称で、函館市内の小中学校の教員と、6人の学校司書から構成されている任意団体です。

研究部では「学びを支え、豊かな心を育む学校図書館」の研究テーマのもと、全員が「読書指導」「情報活用能力の育成」「資料活用」「図書館運営」のいずれかに所属して活動しています。

事業部では読書感想文コンクール審査及び表彰式、読書感想文集の作成と機関紙の発行などを行っています。

今年度は、下記のような活動を行っています。

第1回学校図書館運営講座（7月26日）

「実践！学校図書館の蔵書点検」

情報BOXを活用した蔵書点検の実技研修を行いました。蔵書点検が効率よくできるノウハウを、経験豊富な学校司書から教えてもらい、実際に行いながら学び合うことができました。しばらく運営講座は行うことができない状況だったので、久しぶりの対面での学び合いは貴重な機会となりました。今回も広く参加を呼びかけ、会員ではない教員や学校司書の参加もありました。蔵書点検の後には、参加者全員で自己紹介と学校図書館の様子などの交流も行うことができました。



第2回学校図書館運営講座（10月以降）

「授業公開 ～学校図書館と一人一台端末を活用して～」

図書資料等と一人一台端末を活用した小学校6年生の授業公開を予定しています。授業者も決定しており、夏休み明けから授業作りを始めます。

第3回学校図書館運営講座（1月予定）

函館市中央図書館の職員の方を講師としてお迎えして、「調べる学習コンクール」のことなどを伺いながら資料活用の指導のヒントをいただくとともに、今後に向けてより連携を深める機会にしたいと考えております。

今後は会員数を増やし、学校司書と共に学び合いながら、函館の学校図書館の活動をより充実させていきたいと考えています。

(文責 函館市学校図書館研究会幹事長 函館市立北星小学校 新沼 誠子)

第43回全国学校図書館研究大会（オンライン大会）に参加して

「タブレット端末から発信すれば、学校中が学校図書館」

北海道学校図書館協会 研究部幹事 児玉優子

(札幌市栄南中学校・栄町中学校 学校司書)

今回初めて全国大会に参加しました。8月3日から31日までのオンライン開催でしたので、都合に合わせてすべての講演や分科会を視聴することが可能でした。ただ、時間切れで視聴しきれなかったものがあり、動画視聴の限度を感じつつも、全国大会ならではの講師陣や各地からの実践発表はとても刺激的で、見識を広げる機会となりました。

特に、群馬大学情報学部 柴田教授の講演「子どもの読書における紙とデジタルの使い分け～認知科学からの考察～」は、認知科学の観点から読み書きを分析、具体的に示された数々の実験数値が強く印象に残るものでした。さっそく、興奮気味に司書教諭や図書館担当教諭、図書館に立ち寄った国語科教諭にも情報提供したところ、時間に融通がきく夏休み中ということもあって、生徒の読み書きの現状からご自身の読書体験にまで話がおよび、熱い語らいが続きました。その後、講演会の概要を教職員向け司書だよりで紹介したのですが、その反応はいまひとつ。とは言え、このような情報を先生方に提供できるのは学校図書館だからこそ、今後も発信し続けることが大切だと感じています。なお、柴田先生の講演記録は『学校図書館』2022年9月号と10月号に詳しく掲載されています。

このほかに、GIGAスクールに対応した著作権や、一人一台端末と学校図書館をつなぐ活用事例、学校図書館の動画視察など多くの動画を視聴し、ICT活用と学校図書館の向かう先を見ることができました。なかでも講義「教育の情報化と学校図書館②」の中学校編を担当された村山正子先生からは学校図書館でできる実践的な支援の方法が示され、「タブレット端末から発信すれば、学校中が学校図書館」という言葉に勇気をいただいた気がします。

今回はオンライン大会となり、講師の方々や参加者と交流し、繋がり、学び合うことが叶いませんでした。次回2024年は高松大会（香川県）です。そのころには状況が改善し、現地で全国各地の方々と集い学び合えることを心待ちにしています。

第45回 北海道学校図書館研究大会・苫小牧大会

2023年9月1日(金)～2日(土)

～多くの皆様のご参加をお待ちしております～

苫小牧支部では、来年度の第45回北海道学校図書館研究大会苫小牧大会の開催に向けて、準備を進めているところです。昨年度に大会準備委員会を立ち上げ、今年度は大会運営委員会を設立し、関係者が精力的に準備を進めています。この間、函館市支部との引き継ぎにより、これまでの多くのご苦勞が詰められた資料をいただいております。心より敬意を表する次第です。

大会運営委員会では、大会組織の立ち上げをはじめ、大会の日時・日程、会場の決定、記念講演講師のほか、授業者・提言者の検討など、頭を悩ませながら協議を進めているところです。

研究組織の母体である市教育研究会の解散により、昨年度、新たな組織として「苫小牧学校図書館協会（略称：苫小牧SLA）」を設立しました。任意団体の扱いのため、各校から会員を出してもらえず、会員が減少し、活動が従来通りにいかないことが多くなりました。今年度は、会のPR活動に努め、市の助成金をいただくこともでき、研究活動も軌道に乗ってきております。

今後、各支部には提言や司会者、助言者の決定についてご協力をいただくことになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。そして、多くの皆様のご参加を苫小牧にて心よりお待ちしております。

文責：北海道学校図書館研究大会苫小牧大会事務局長 松井操人
(苫小牧市立拓勇小学校 校長)

第43回全国学校図書館研究大会（オンライン大会）に参加して

「問い」に向き合う学びの機会

北海道学校図書館協会 研究部幹事 原 知 枝

(札幌聖心女子学院 学校司書)

多くの実践発表でICTが授業に効果的に活用され、勤務校に合わせて調整することで取り入れられそうなものが多く、大変参考になった。また、情報検索手段としてインターネットと図書館の本や新聞などをどちらも使った実践がほとんどで、学校司書として今後も生徒が情報を探するために図書館がどのように関わることができるかを考えていくことが楽しみのようになった。

しかし、ICTの活用を楽しもうという気持ちが膨らむ一方で、複数の講義を通し、インターネット環境が整い情報が簡単に手に入るようになったことで、「問い」に向き合う学びの機会が失われないようにする必要性も感じた。特に、柴田博仁教授の講演の「学習の目的である問題解決の方法を学ぶという機会が、他人の出した答えを簡単に獲得することで失われる可能性がある。問題解決の手法を知る前に答えを得る為、じっくりと物の本質を考えて問題解決をするということに影響が及ぶのではないか」という言葉には深く頷かずにいらなかった。勤務校の生徒を見ている、本や新聞など複数の手段で情報収集することを面倒だと感じ、書架でタイトルだけを眺め、必要な内容の本が無いと判断しインターネットだけで調べようとする人が多い。タイトルだけで判断せずに目次や索引なども見て本を探すこと、最新の情報に関しては新聞も有効であることなどを指導するが、それでもインターネットだけに頼る生徒も多い。適切な方法で情報を探することは、その過程で課題と深く向き合うことができ、自分で答えを導き出すことの喜びに繋がる。また、適切な調査方法を判断する知識と技術の獲得にも繋がる。そのための支援方法を授業の事前相談などで提案できるよう、今後も図書資料やICTなどの活用方法に関する知識や技術を学び、教員と情報共有をしながら共に授業をつくっていきたく改めて思う機会となった。

第58回 全道研究部長会から

北海道学校図書館協会第58回全道研究部長会が9月24日（土）、25日（日）の両日、札幌市中央区のかでる2・7で行われた。

1日目の前半には、令和5年度に開催が予定されている北海道学校図書館協会苫小牧大会の大まかな概要が苫小牧学校図書館協会の高取研究部長より報告された。昨年度までの研究推進母体であった苫小牧市教育研究会の解散により、新たな組織として「苫小牧学校図書館協会（苫小牧SLA）」が設立され、今年度には大会運営委員会を設立したことも合わせて発表された。研究主題や会場、大会日程などは現在大枠が固まりつつあり、令和5年1月の全道研究部長会までには、より詳しい内容が報告されることが確認された。

1日目の後半には、札幌支部と帯広支部から研究や活動の状況が報告された。札幌支部の安部先生からは、コロナ禍の中、7月に3年ぶりに実施された「学校図書館クリニック」の様子などが報告された。また帯広支部の稲見先生からは、図書館担当者実務研修会が開催され、久しぶりに対面での交流がもたれ盛り上がりを見せたことが報告された。さらに帯広市立川西中学校では「学校図書館クリニック」が開催され、電子書籍の活用を進める学校の実践例も紹介されたことも付け加えられた。

2日目は1日目後半に引き続き、道内各支部からの活動状況の報告が行われた。空知地区の古関先生からは、支部をカバーする地域が広範囲にわたっているなか、7月～8月には、地区内で統合を予定している2校の中学校で「学校図書館クリニック」を開催、地区の会員が久しぶりに会同できたことを報告した。旭川支部の吉井先生からは、会を支えるメンバーは広がりつつあるが、コロナ禍で人が集まって実践研修したり授業研究したりする機会がなかなか設定できない現状を報告した。苫小牧支部の高取先生からは、苫小牧市教育研究会の解散にともない、有志によって



立ち上げられた「苫小牧学校図書館協会」の組織づくりの状況や活動の様子が報告された。釧路支部の原田先生からは、会の活動を推進していくメンバーが限定されるなか地域内各校にアンケートを実施、釧路市教委との連携を模索しながら読書感想文コンクールの実施やビブリオバトルの開催など、できること・やってほしいと思われていることから活動を進めている現況を伝えた。久しぶりに会同して行われた「全道研究部長会」であったが、道内各支部の先生方の学校図書館活動に寄せる熱い思いが強く再認識させられた2日間であった。

(文責：北海道学校図書館協会 総務部長 村山知成)

第34回読書感想画コンクール・第10回全道コンクール募集要項

- 1 主催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書(推薦「北海道青少年のための200冊」)(2) 指定読書(主催者が指定した図書)
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 **2022年(令和4年)12月23日(金)**
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒
満20歳以下に限る。(2002年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切～4つ切)とする。
※画材は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項のものを使用)※作画感想は原則として自筆とする。
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・DVD等の場面をまねたものは審査の対象としない。作品は、個人のオリジナルで未発表の作品であること。
- 7 応募に当たって
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ㊦060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社
『第34回読書感想画コンクール・第10回全道コンクール』係
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞
2) 学校賞～上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校
※各部上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。
※入賞発表は、毎日新聞紙面にて行う。(2月上旬予定)

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	価格(税込)
小学校低学年	あかいてぶくろ	林 木林(文) 岡田 千晶(絵)	小峰書店	1,760円
	ナイチンゲールのうた	ターニャ・ランドマン(作) ローラ・カーリン(絵) 広松 由希子(訳)	B L 出版	1,870円
	タヌキの土居くん	富安 陽子(作) 大島 妙子(画)	福音館書店	1,210円
小学校高学年	おこめをつくる のうふののふさん	室井 さと子(作)	新日本出版社	1,540円
	^{なぎの} 那木野、伝説の森で	西村 さとみ(作) 佐竹 美保(絵)	国土社	1,540円
	エヴィーのひみつと消えた動物たち	マツ・ヘイグ(作) 宮坂 宏美(訳) ゆうこ(絵)	ほるぷ出版	1,650円
中学校・高等学校	不思議屋敷の転校生	藤重 ヒカル(作) 宮尾 和孝(絵)	金の星社	1,430円
	天の ^{かいこ} 蚕が夢をつむぐ：大島紬ものがたり	谷本 雄治(著)	フレーベル館	1,650円
	はなの街オペラ	森川 成美(作) 坂本 ヒメミ(画)	くもん出版	1,650円
中学校・高等学校	ぼくたちのスーパースポーツ：小さな思いやりが世界を変える！	ベン・ディヴィス(作) 渋谷 弘子(訳)	評論社	1,760円
	火星は...	スザンヌ・スレード(文) 千葉茂樹(訳) 三河内 岳(監修)	あすなろ書房	1,980円
	蛍と月の真ん中で	河邊 徹(著)	ポプラ社	1,760円
	さばの缶づめ、宇宙へいく ：鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち	小坂 康之・林 公代(著)	イースト・プレス	1,650円

2022年度(令和4年度) 北海道の先生がおすすめる本 北海道指定図書

🍃 小学校低学年の部(1・2年)



さくららら

升井 純子/文 小寺 卓矢/写真
アリス館 1,540円(税込)
北国の桜の木は、じっくり開花の準備をします。自分の咲く日は自分でできる、さくらちゃんをまわりも温かく見守ります。



きたぎつねとはるのいのち

手島 圭三郎/絵・文
絵本塾出版 1,870円(税込)
北海道の冬は、動物にとっても厳しい季節。やがて、春の陽射しに包まれて、きたぎつねは、生きる幸せを感じるので。



すみれちゃんと ようかいばあちゃん

最上 一平/作 種村 有希子/絵
新日本出版社 1,430円(税込)
山また山のその先に、ようかいばあちゃんはすんでいます。ひまごのすみれちゃんは、一人でおとまりするのですが…。



ゆきのようせい

松田 奈那子/作・絵 石黒 誠/監修
岩崎書店 1,540円(税込)
秋のおわり、雪虫はいきものたちに冬の訪れを知らせにゆきます。ある一匹の雪虫も、りすたちのところへ行きますが…。

📖 中学校の部



みつばちと少年

村上 しいこ/著 高山裕子/絵
講談社 1,540円(税込)
北海道の大自然を舞台に、『みつばちマーヤの冒険』を愛読する少年と、様々な事情を抱えた子どもたちの交流を描く感動作!



マイブラザー

草野 たき/著
ポプラ社 1,650円(税込)
夢も友だちもなく、5歳児の弟の面倒を見る毎日。イクメン中学生・海斗の迷走と目覚めを描く、笑って泣ける成長小説。

🐾 小学校中学年の部(3・4年)



クマが出た! 助けてベアドッグ クマ対策犬のすごい能力

太田 京子/著
岩崎書店 1,430円(税込)
人も、クマも助けたい!人とクマ共存のために働く、職業犬、ベアドッグの活躍を描くノンフィクション。



きけんなゲーム

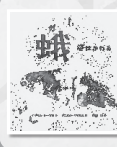
マロリー・ブラックマン/作
もりうち すみこ/訳 佐竹 美保/絵
文研出版 1,430円(税込)
病気のため、運動も旅行もできなかったサムが林間学校に行くことに。それは「きけんなゲーム」のはじまりだった…。



命を救う 心を救う 途上国医療に人生をかける小児外科医 「ジャパンハート」吉岡秀人

ふじもと みさと/文 佼成出版社 1,650円(税込)
ミャンマーで貧しい人を無償で治療してきた医師の吉岡さん。その半生と忘れ難い日々を綴った児童書ノンフィクション。

📄 小学校高学年の部(5・6年)



ガ 蛾 姿はかわる

イザベル・トーマス/文 ダニエル・イグナス/絵
青山 南/訳 化学同人 2,090円(税込)
うすい色の蛾と、こい色の蛾。産業革命の大気汚染を生きのびてきたオシモンフリエダシヤクの、進化のおはなし。



天の台所

落合 由佳/著
講談社 1,540円(税込)
卵も割れない小6男子、がみババのもとで料理修業始めました!避けられない喪失との向き合い方を、料理を通じて描く力作。



五七五 ほくのとなりはブラジル人

万乃華 れん/作 黒須 高嶺/絵
文研出版 1,540円(税込)
5年生の早川あさひは、ブラジルから来た日本語を話せない女の子ラウラと川柳をつくることに。困ったあさひはどうする?

北海道の本を読みましょう!

第68回 青少年読書感想文全道コンクール 第48回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社
■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。 ●ホームページ [北海道学校図書館協会](#) 検索

第55回 北海道学校図書館研修講座 へのご案内

さらに詳しい情報は、別紙の開催要項案内(11月下旬に本会ホームページにも掲載)をご覧ください。

主催 ● 北海道学校図書館協会

後援 ● 北海道教育委員会 札幌市教育委員会

趣旨 ● 学校図書館の運営及び情報活用能力の育成、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ● 令和5年1月5日(木) 10:00 ~ 7日(土) 11:50 *2日半日程、5日・6日の午後は15:45まで

会場 ● 北海道立道民活動センター(かでる2・7) 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011) 204-5100

参加資格 ● 学校図書館及び読書指導・情報活用能力の育成に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ● A共通講座(講演): 80名、B選択講座(ファーストコース): 40名、C選択講座(ステップアップコース)、D指導者研修講座: 各20~30名程度

※すべての講座を先着順で受付いたします。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、会場定員が緩和された場合はその範囲内で定員を増やす可能性があります。

参加費 ● 4000円 ※参加費はイベント申し込みサービスで事前にお支払いください。

3年ぶりに
会同しての開催
です。
ご参加をお待ち
しています。

参加申込 ● 参加ご希望の方は、12月1日(木)~14日(水)の期間に、
イベント申し込みサービス Peatix で お申し込みください。

<https://55douslakensyu.peatix.com>

申し込み開始日前には、
アクセスできません



A: 講演 ~ 教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。

「民主主義社会と学校図書館 - 「図書館の自由に関する宣言」と関連して」

元藤女子大学 教授 渡邊 重夫氏

B: ファーストコース

~ 学校図書館に関して基礎から学びたい方におすすめのコースです。

1. 講義「管理・運営」
(公社)全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 野村 邦重氏
2. 講義「図書館活動」
北海道七飯高等学校 司書教諭 加藤 孝志氏
3. 講義「読書指導」
札幌市立北郷小学校 司書教諭 山田 佳子氏
4. 講義「情報活用能力の育成指導」
恵庭市立和光小学校 司書教諭 井上 陽子氏

C: ステップアップコース

~ もう一歩深めたい方におすすめのコースです。

1. 講義・実習「楽しく進める情報活用能力の育成指導 2022」
(公社)全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子氏
2. 講義・実習「ステップアップ・読書アニメーション」
北海道教育大学札幌校 非常勤講師 佐藤 広也氏
3. 講義・実習「プロに学ぶ伝え方のコツ」※先着12名
Office Manzaki 代表・声とことば塾主宰
(アナウンサー・音声言語指導者) 萬崎由美子氏
4. 講義・実習「やってみよう! SDGsのブックトーク」
士別市立士別南小学校 司書教諭・絵本専門士 若林みずほ氏
5. 講義・実習「調べる力をつける学校図書館のレファレンス」
北海道学校図書館協会研究部 新田 裕子氏
6. 交流「学校図書館と一人一台端末」
札幌市立手稲中学校/稲積中学校 学校司書 浅村麻姫子氏
7. 交流「学校司書の研修~現在地と未来を語ろう」
札幌市立栄南中学校/栄町中学校 学校司書 児玉 優子氏

D: 選択講座・実践討議

~ 校種別に分かれ、実践発表を元に討議を行います。

1. 討議「図書館資料の活用とその指導~小学校」
札幌市立平岸高台小学校 教諭 和田 誉氏
2. 討議「図書館資料の活用とその指導
~中・高等学校」
北海道教育大学附属札幌中学校 教諭 小笠原 太郎氏
3. 討議「図書館資料の活用とその指導~特別支援」
前 札幌市立手稲東中学校 教諭 遠藤 薫氏

E: 指導者研修講座 (第59回全道研究部長会)

1. 第45回北海道学校図書館研究大会(苫小牧大会)について
2. 支部研究交流
各支部研究部長
北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子
(札幌市立北郷小学校 司書教諭)
北海道学校図書館協会事務局長 新津 智哉
(札幌市立西陵中学校 校長)

問い合わせ先 浅村 麻姫子(あさむら まきこ)

メールアドレス: hokkaidosla2021@gmail.com

FAX: 011-684-5738 (札幌市立稲積中学校)

**できるだけメール、またはFAXでの
お問い合わせにご協力ください。**

学校図書館情報

■第76回読書週間 [公益社団法人読書推進協議会]



今年度の標語
「この一冊に、ありがとう」

標語の作者であるの天野耕平さんは、「読書で心が震える体験は、何物にも代え難い奇跡のようなものだと思います。そして、自分の未来にはそんな奇跡がまだまだたくさん待っているという妙な確信もあります。本に関わっているすべての人に感謝を伝えたいです。」と述べています。

また、ポスターの作者 たしまさとみさんは、「そっとありがとう。踊っちゃうほどありがとう。力強くありがとう。それぞれの想いとそのものがたり、会えてよかった。心つながる世界ひろがる一冊に、出会えるゆたかな未来がこれからも続きますように。」と述べています。

お二人とも、読書を通して得た経験を、魅力的な言葉と絵で豊かに表現されています。

読書の力の素晴らしさについて、読書週間に機を改めて広げていきたいものです。

■読書感想文コンクール・中学生作文コンクールの審査が行われています

両審査に関わり、各支部の審査員の皆様にはご尽力いただきましてありがとうございます。今年度も各表彰式にて、子どもたちの晴れがましい姿に立ち会えることを楽しみにしています。

■第34回読書感想画コンクール・第10回全道コンクール →募集締切12月23日(金)

全道の小中高等学校・特別支援学校に向けて先月要項を発送しております。学校関係者の皆様には、応募への働きかけをお願いいたします。また、その際には、「自由読書」に令和4年度「北海道青少年のための200冊」を是非お勧めくださるようお願いいたします。

■第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」

今年度から始まるこの計画では、第5次の成果と課題を踏まえ、全ての小中学校等において学校図書館図書標準の達成を目指すとともに、計画的な図書の更新、新聞の複数紙配備および学校司書の配置拡充を図っています。児童生徒が読書に親しみ、学習に生かすことの価値を地域全体で共有し、学校図書館の充実を発信していきましょう。

■ホームページ 学校図書館の活用資料コーナー

トップページにある学校図書館の活用資料のコーナーには、「学習に役立つサイト」「困ったときにはこれを読め」「こんなときは、この本で」等のコーナーがあります。是非ご活用ください。

事務局

事務局長 新津 智 哉 (札幌市立西陵中学校長)
事務局校 札幌市立西陵中学校
〒063-0835 札幌市西区発寒15条2丁目5-1
TEL 011-662-9323 FAX 011-661-3729

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆絵本紹介

『いこうよ がっこうとしょかん』(全3巻) 化粧箱入り

監修：横山寿美代 (東京都杉並区小学校司書) 絵：1巻 青山ゆういち 2巻 ささきみお 3巻 イクタケマコト

ISBN 978-4-87981-667-2

少年写真新聞社 本体6,000円+税

(1) 『みんなまってるよ!』

学校図書館初心者の子どもたちに送る絵本シリーズ。1作目は図書館の魅力を明るく楽しく伝えます。

(2) 『本の声を聞きました』

本を大切に扱うことは図書館利用のマナーの基本。どんなことをすると図書館の本が困るのか、本たち自身に語ってもらいました。

(3) 『としょかん町のバス』

学校図書館や公共図書館の多くで使われている日本十進分類の内容を、バスに乗って町を巡る感覚で見えて回しましょう。



編集後記

9月24日と25日に「第58回全道研究部長会」が開催されました。今回は3年ぶりに参集型の会として行われ、次年度の苫小牧大会に向けての進捗状況の確認と各支部からの活動報告を行いました。活動する中での困りごとなども交流することができ、悩みが解決して「ここに来ると何でも分かる」と話していた支部もあって、とても充実した会となりました。ご参加いただいた皆様には感謝申し上げます。苫小牧地区での開催を皆で応援していきましょう。

(編集：村山 知成 野村 邦重)
大久保 雅人 新津 智哉)

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>